

令和5年度分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和5年度分について、輸出額は「自動車」「自動車の部分品」「重電機器」などが増加したことから、対前年度比10.3%の増加となった。また、輸入額は「液化天然ガス」「原粗油」などが減少したことから、同4.4%の減少となった。
その結果、差引額は8兆3,413億円（同27.3%の増加）となった。

輸出額は**過去最高**となり、**3年ぶりの全国港別（空港含む）で第1位**
差引額は**過去最高**となり、平成10年度以降**26年連続で全国港別（空港含む）で第1位初となる輸出額15兆円超え及び差引額8兆円超え**

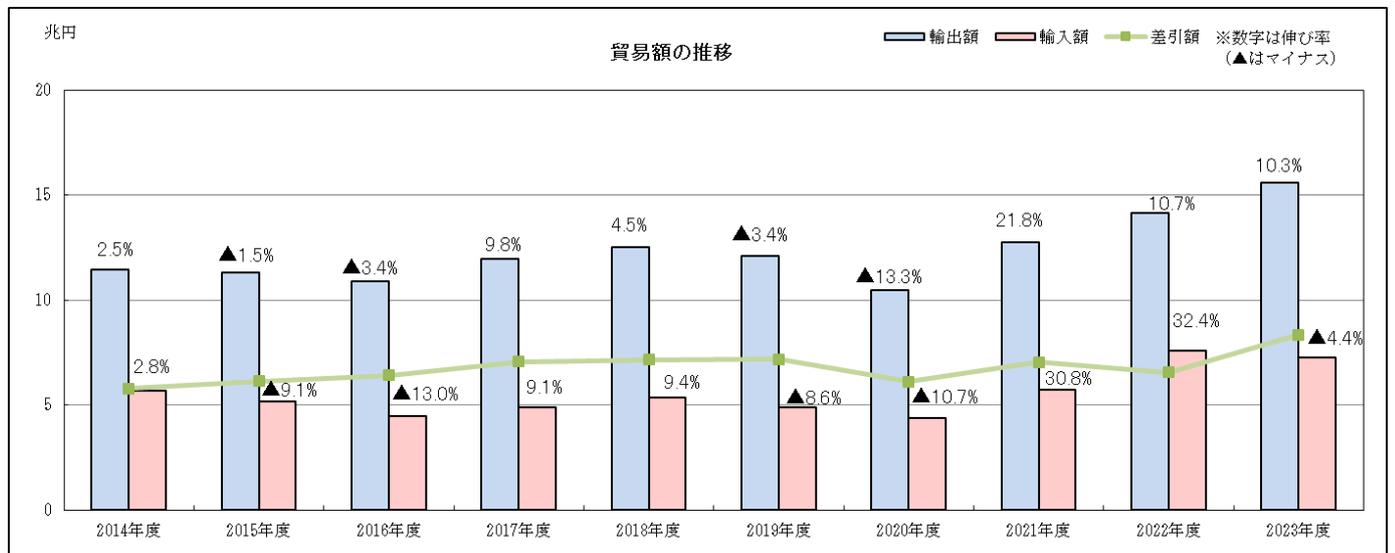
注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年度比による
また、★印は名古屋港において全ての年度を通じて過去最高を示す（1979年度以降のデータを基礎として比較）

○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	★ 15兆5,902億円	+10.3%	7兆2,489億円	▲4.4%	★ 8兆3,413億円	+27.3%
	3年連続の増加		3年ぶりの減少		2年ぶりの増加	
	順位	過去 1 位	順位	過去 2 位	順位	過去 1 位
管内（名港シェア）	24兆6,923億円（63.1%）		13兆6,470億円（53.1%）		11兆0,453億円（—）	
全国（名港シェア）	102兆8,983億円（15.2%）		108兆7,901億円（6.7%）		▲5兆8,919億円（—）	

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出増加	(1) 自動車	★ 4兆6,261億円	+26.4%	+6.8	3年連続の増加
	(2) 自動車の部分品	2兆1,724億円	+7.2%	+1.0	2年ぶりの増加
	(3) 重電機器	★ 5,512億円	+32.4%	+1.0	8年連続の増加
輸入減少	(1) 液化天然ガス	5,257億円	▲32.2%	▲3.3	3年ぶりの減少
	(2) 原粗油	5,497億円	▲19.6%	▲1.8	3年ぶりの減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。
名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）西部出張所をいいます。